

鶴田町学力向上推進実態調査結果【平成20年度－平成27年度比較】

教師用

1 あなたは、児童生徒の学力が向上する要因として、何が大切だと思いますか。次の中から、大切だと思う順に3つ選び、番号で答えてください。

(1) 1番目

n=有効回答数

■平成20年度

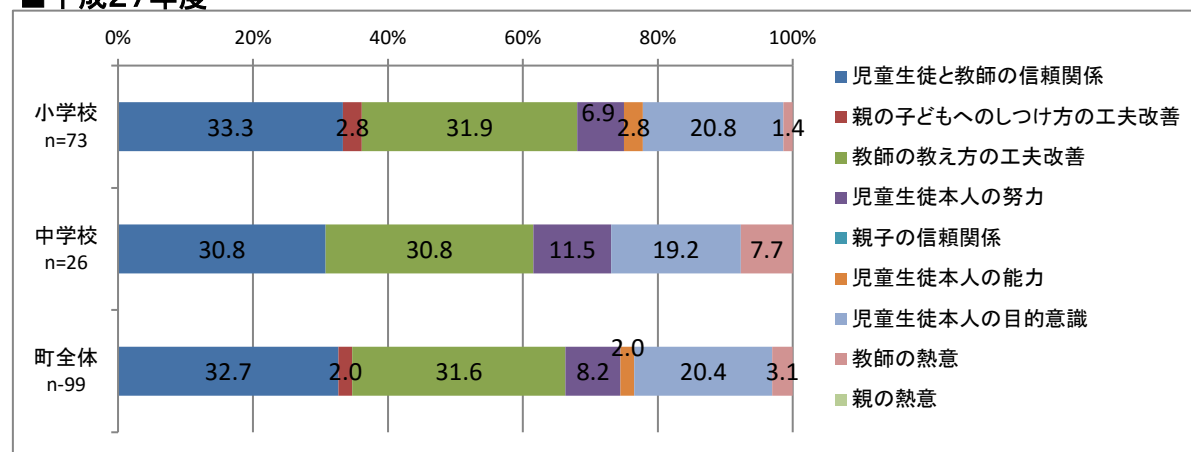


「児童生徒の学力が向上する要因として1番目に大切なもの」に関しては、

小学校では、20年度は「児童生徒本人の目的意識」が最多であるのに対し、27年度は「児童生徒と教師の信頼関係」が最多となっている。

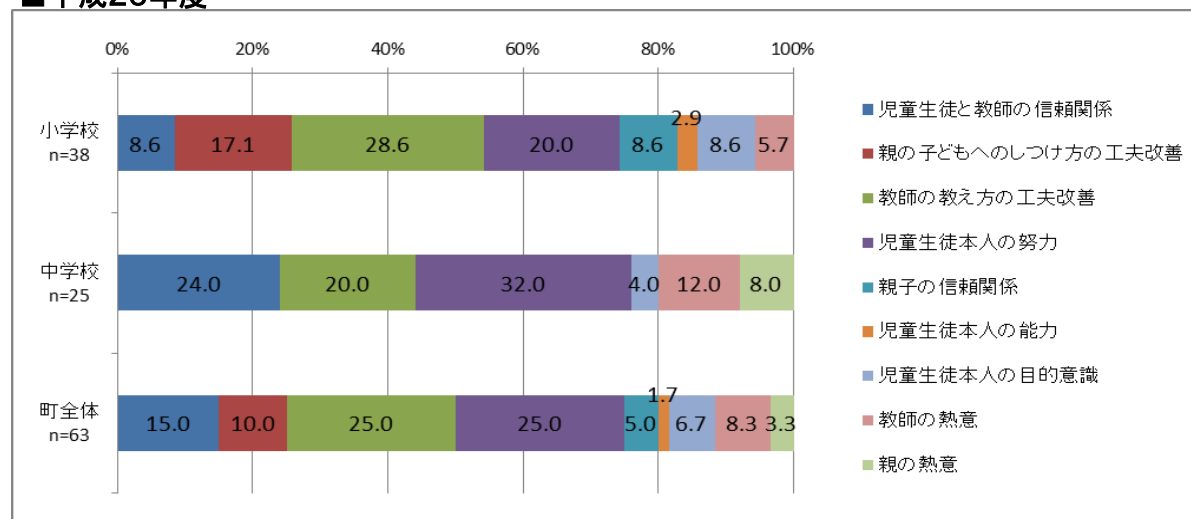
「教師の教え方の工夫改善」が1番目に大切であると思う教師の割合が、7年前よりも増加している。

■平成27年度



中学校では、「児童生徒と教師の信頼関係」が大きく増え、「親子の信頼関係」、「親の子どもへのしつけ方の工夫改善」がゼロになっている。

(2) 2番目
■平成20年度

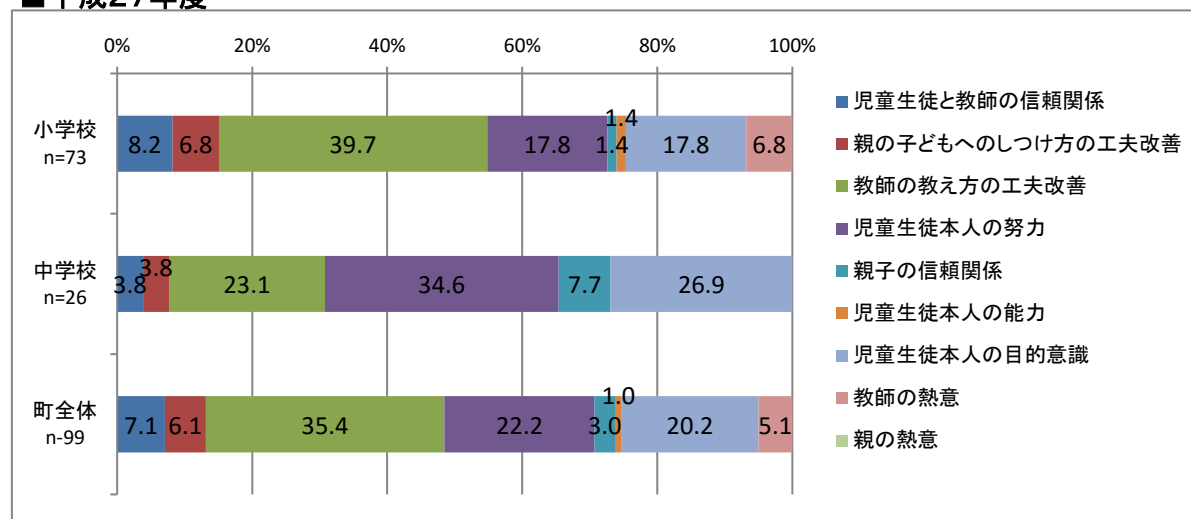


「児童生徒の学力が向上する要因として
2番目に大切なもの」に関しては、

小学校では、20年度も27年度も「教師の教え方の工夫改善」が最多となっている。

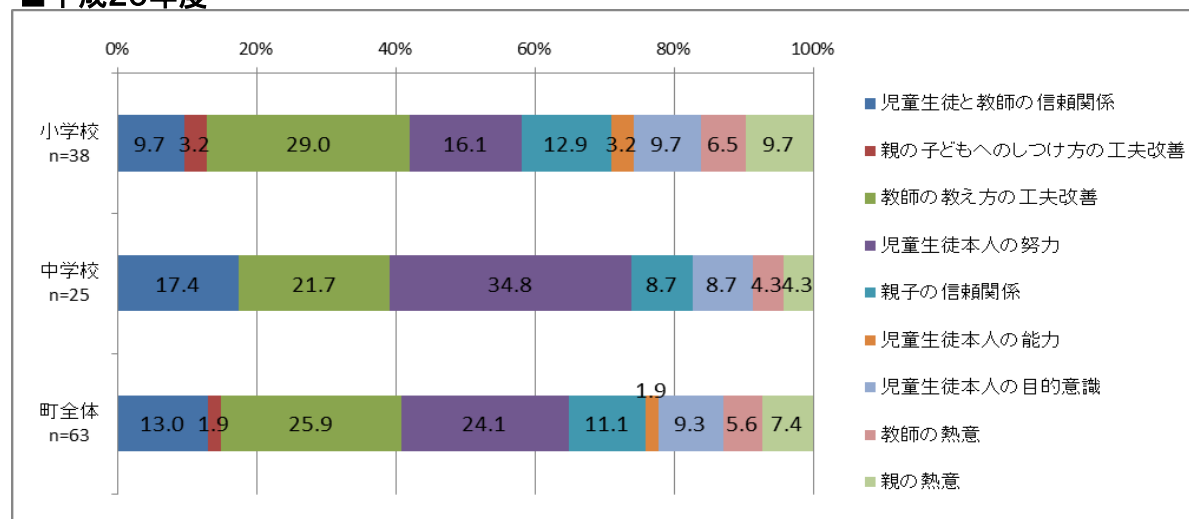
「親の子どもへのしつけ方の工夫改善」の割合が減少しているのに対し、「児童生徒本人の目的意識」が増加している。

■平成27年度



中学校では、「児童生徒本人の努力」が最多となっている。また、「本人の目的意識」が23ポイントと大きく増加したのが目立っている。

(3) 3番目
 ■平成20年度



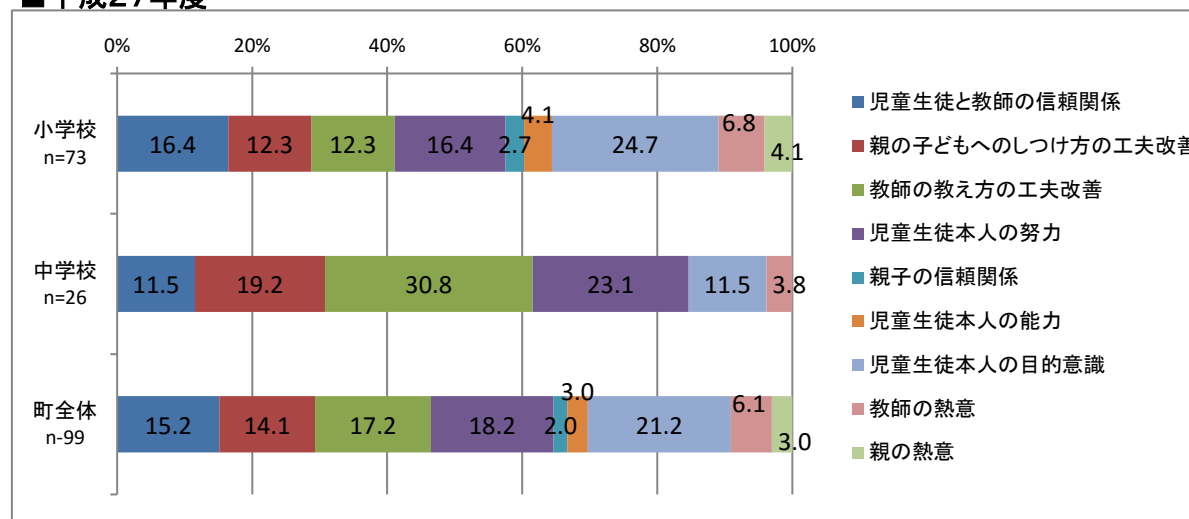
「児童生徒の学力が向上する要因として
 3番目に大切なもの」に関しては、

小学校では、20年度は「教師の教え方の工夫改善」が最多であったのに対し、27年度は「児童生徒本人の目的意識」が最多となっている。

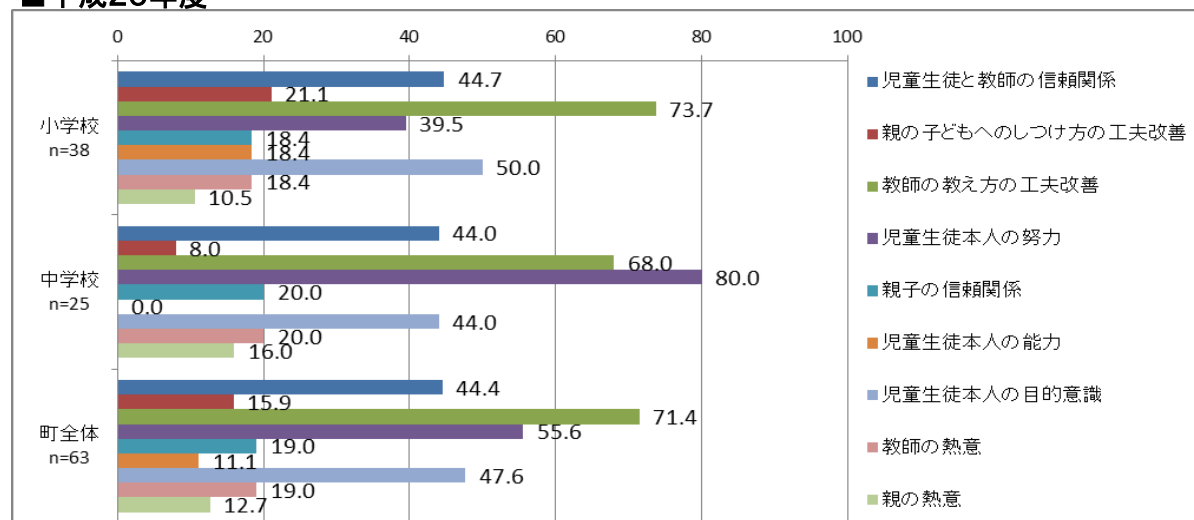
中学校では、20年度は「児童生徒本人の努力」が最多であったのに対し、27年度は「教師の教え方の工夫改善」が最多となっている。

「親の子どもへのしつけ方の工夫改善」が、0%から19.2%と、20年度から大きく増加している。

■平成27年度



(4) 全体
■平成20年度



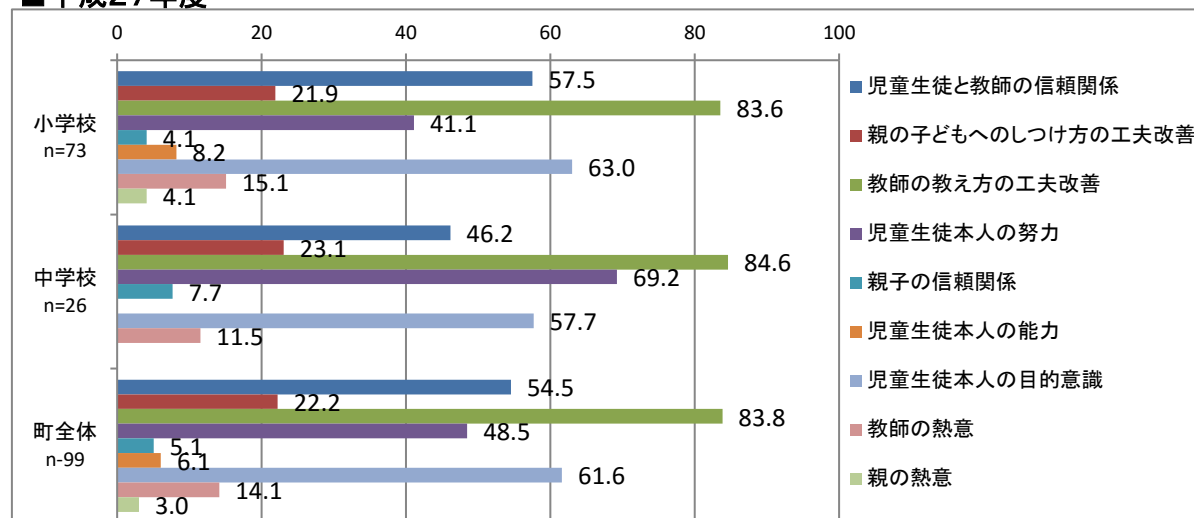
「児童生徒の学力が向上する要因として大切なもの」1～3番目をまとめると、

小学校では、「教師の教え方の工夫改善」、「児童生徒本人の目的意識」、「児童生徒本人の努力」の順に多く、20年度も27年度も同じ結果になっている。

中学校では、20年度は「児童生徒本人の努力」が最多だったが、27年度では「教師の教え方の工夫改善」が最多となっている。

20年度も27年度も、「児童生徒本人の能力」が学力向上の要因、という見方をしている教師はいない。

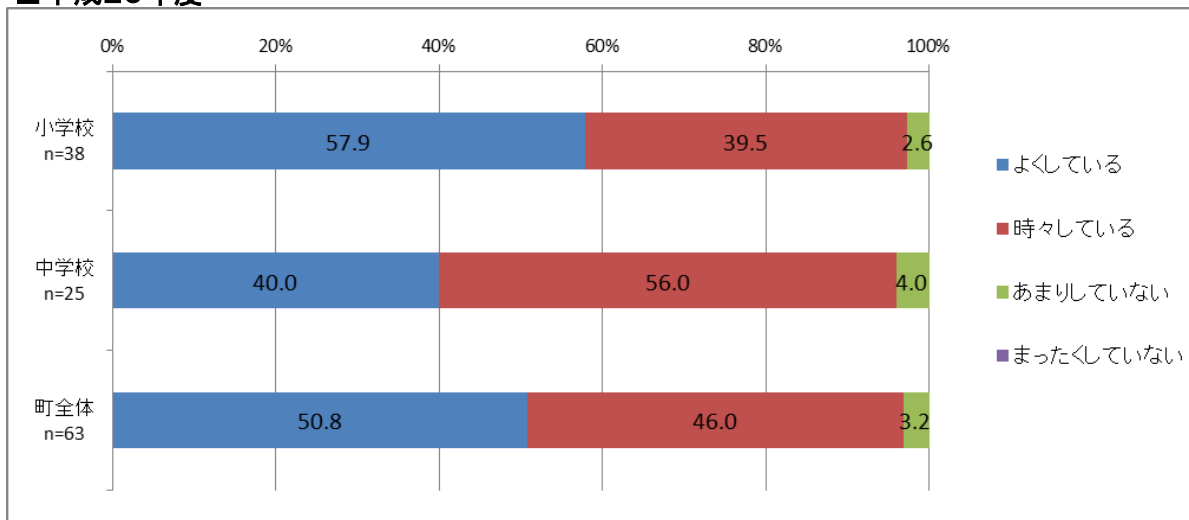
■平成27年度



2 あなたは、児童生徒の家庭学習を習慣化するため、どのようなことをしていますか。(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまる番号を○で囲んでください。(5)は、よくしていることで他にもあったら記入してください。

(1) 機会あるごとに、学習意欲の高揚を図っている。

■平成20年度



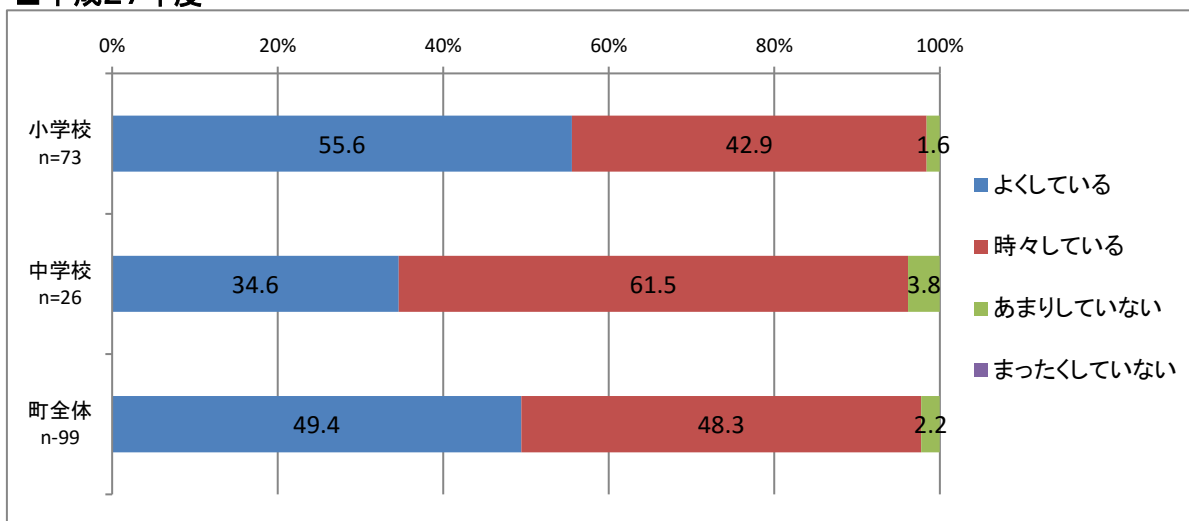
家庭学習の習慣化のために、機会あるごとに学習意欲の高揚を図っているかに関しては、

20年度も27年度も「よくしている」「時々している」を合わせるとほぼ100%であることから、学習意欲の高揚を図るために努力していると思われる。

「よくしている」が20年度から減少し、「時々している」が増加している。

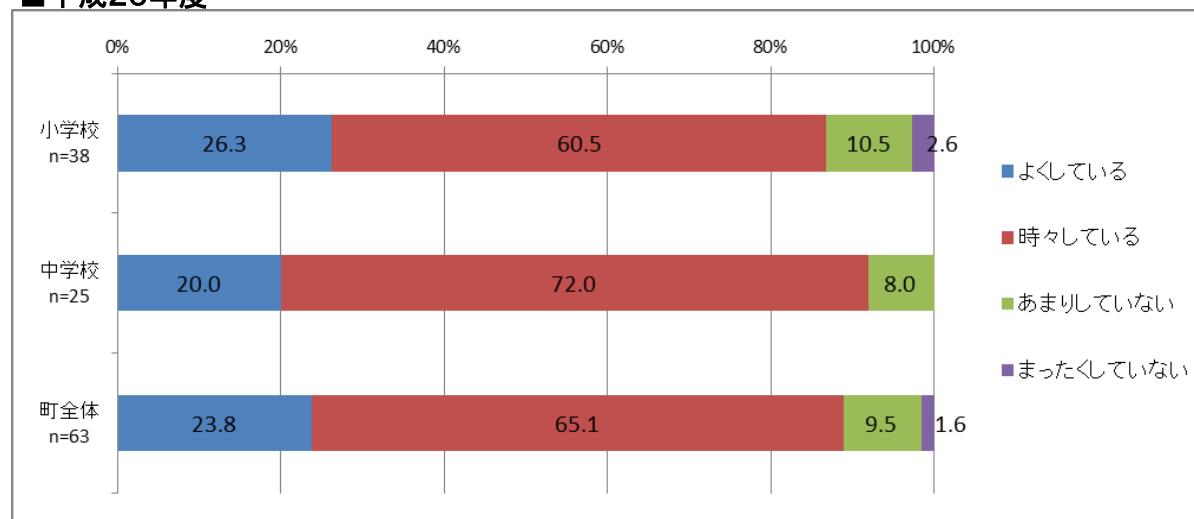
「よくしている」割合が減少しているのは今後の課題と考える。

■平成27年度



(2) 家庭での学習のしかたを指導している。

■平成20年度

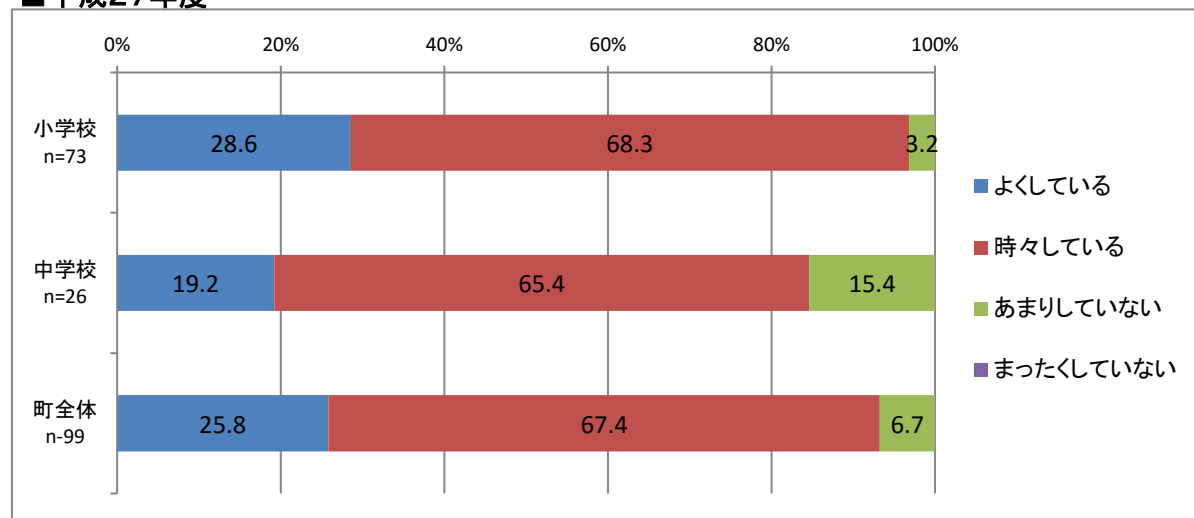


家庭学習の習慣化のために、家庭学習のしかたを指導しているかに関しては、

小学校では、27年度は「よくしている」「時々している」がやや増加し、「あまりしていない」が減少している。

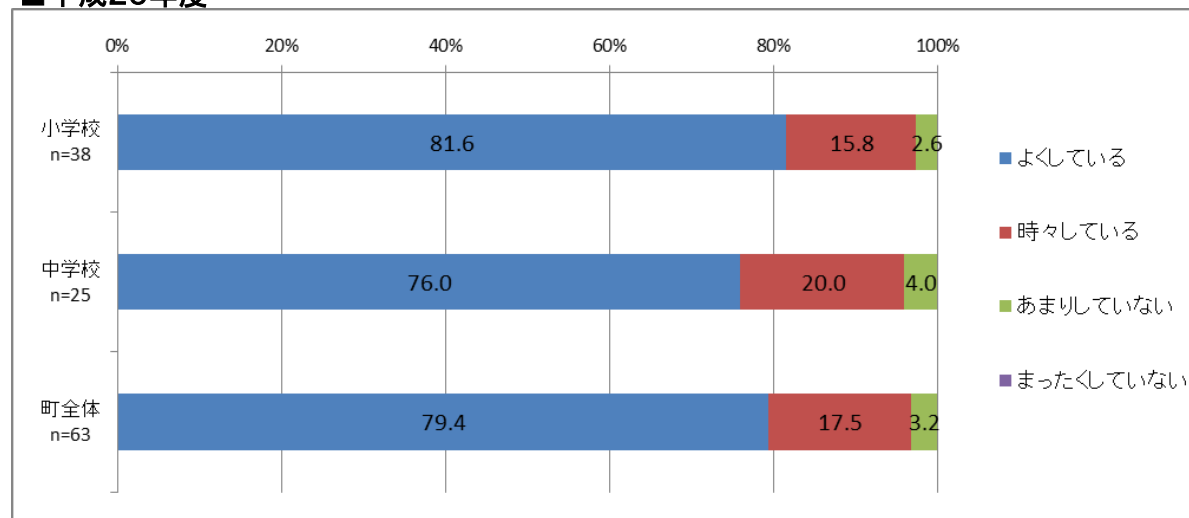
27年度は「まったくしていない」がゼロであることから、家庭学習の仕方の指導がよく行われ、教師側の取組に対する意識が高まっていることがわかる。

■平成27年度



(3) 宿題(課題)を出すとともに点検活動もしている。

■平成20年度



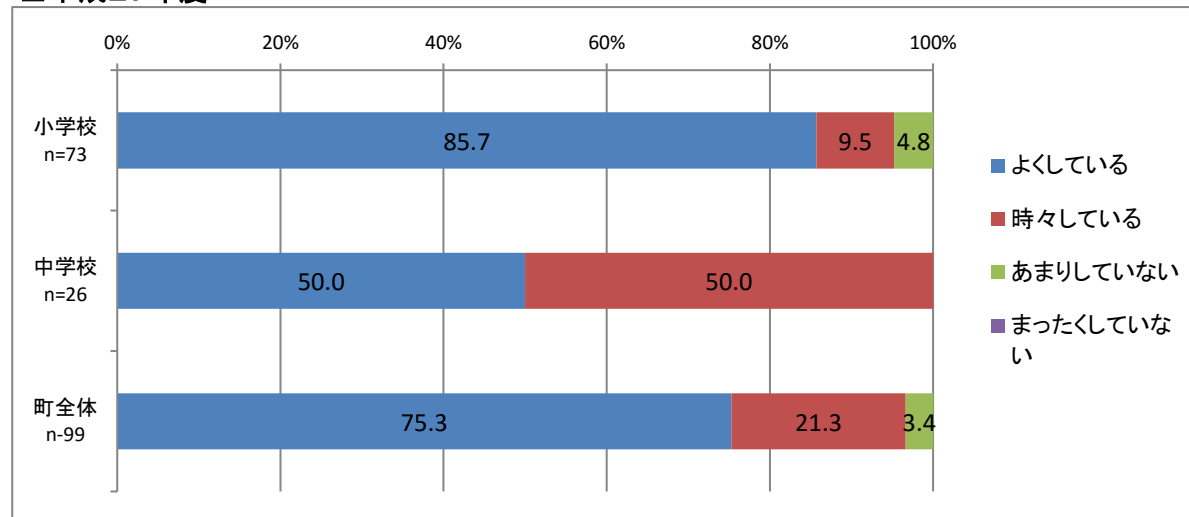
家庭学習の習慣化のために、宿題(課題)を出すとともに点検活動もしているかに関しては、

小学校では、27年度は「よくしている」が20年度と比較するとわずかながら増加していることから、宿題(課題)を出し点検活動もきちんと行われていることがわかる。

一方、「あまりしていない」が27年度は少し増加している。

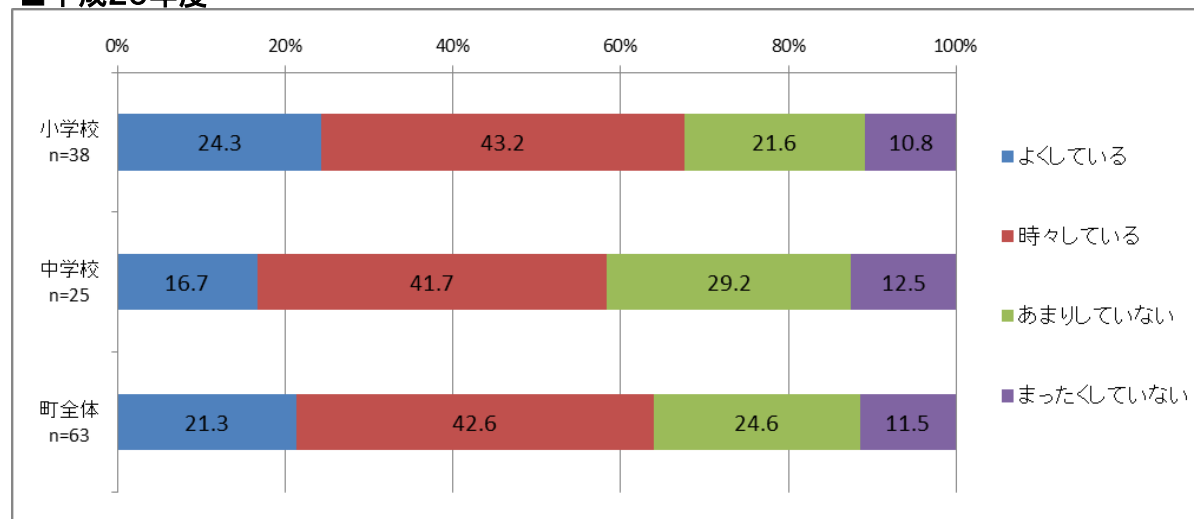
中学校では、27年度は「よくしている」「時々している」を合わせると100%になる。が、「よくしている」割合が20年度から26ポイント減少している。授業の流れ等との関係があるのだろうと推測される。

■平成27年度



(4) 学級通信などを利用して家庭へ啓発している。

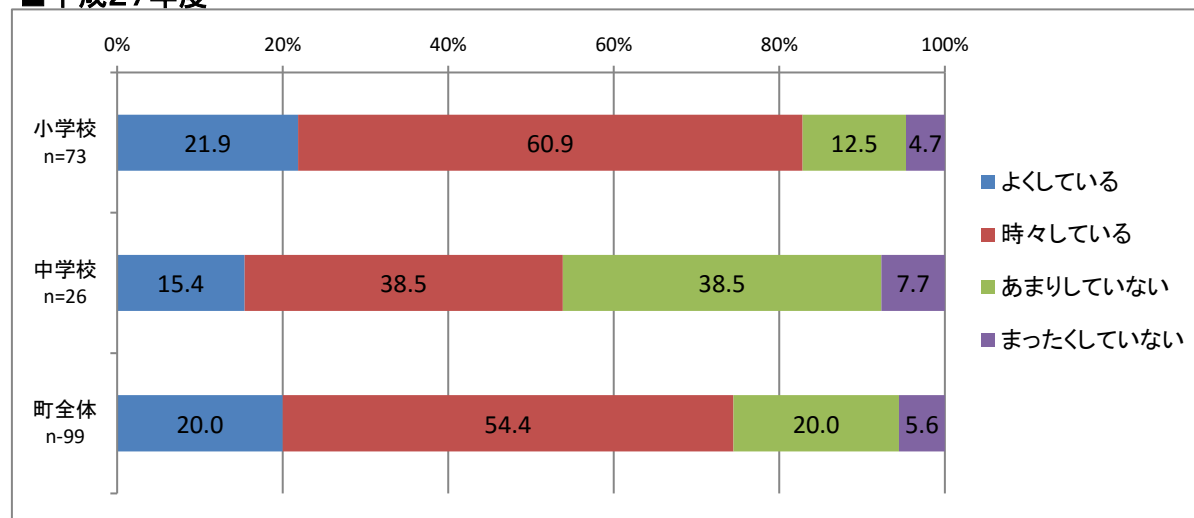
■平成20年度



家庭学習の習慣化のために、学級通信などを利用して家庭へ啓発しているかに関しては、

小学校では、27年度は「あまりしていない」が20年度から減少し、「時々している」が増加している。
以前より、家庭への啓発活動がよく行われるようになったことがわかる。

■平成27年度



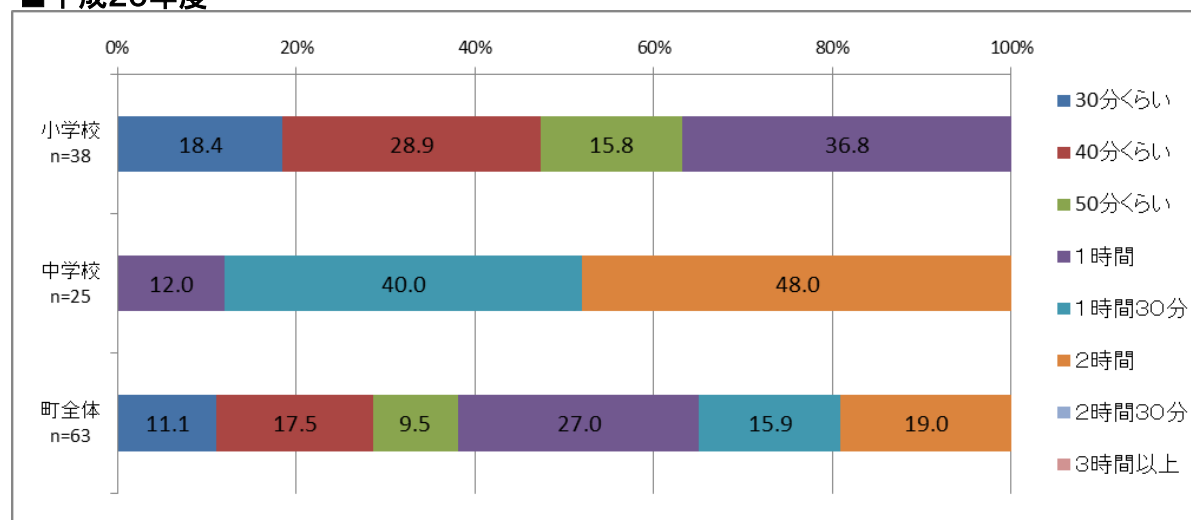
中学校では、学級通信は学校での生活の様子などがメインとなっているため、「よくしている」割合が少ないと考えられる。

それでも、「時々している」と合わせると6割近くになり、家庭学習の啓発に学級通信が役立っていると言える。

3 家庭学習のあり方について質問します。

(1) 今担当している子ども達は、学校がある日、1日あたり学校の授業のほかに何時間くらい勉強が必要だと思いますか。

■平成20年度

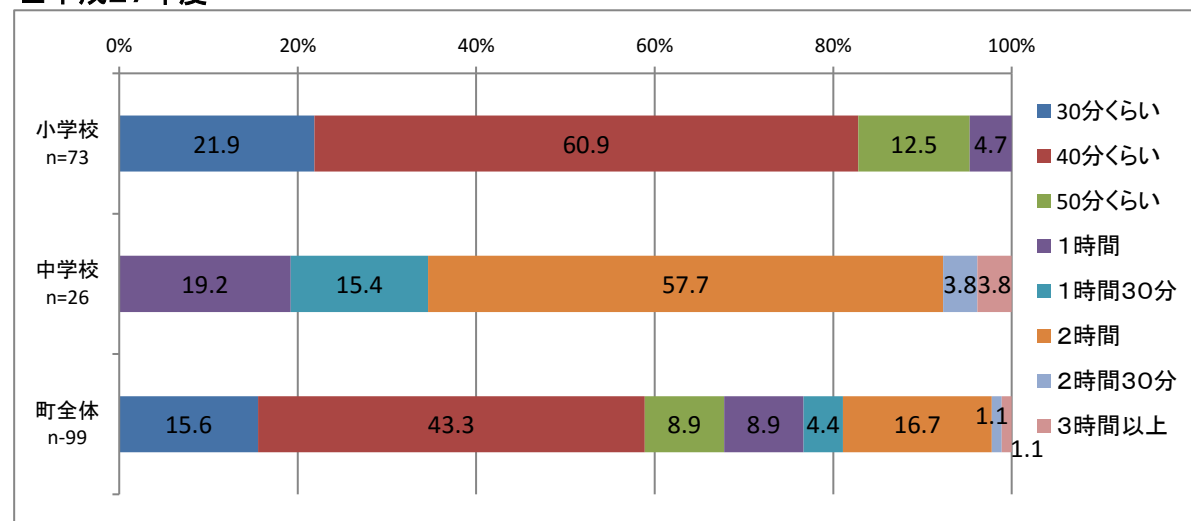


1日あたりの家庭での勉強時間に関しては、

小学校では、家庭に必要な勉強時間は「40分くらい」と考える教師の割合が増加し、「1時間くらい」の割合が減少している。

家庭学習として、最低40分は取り組んでほしいという思いが感じ取れる。

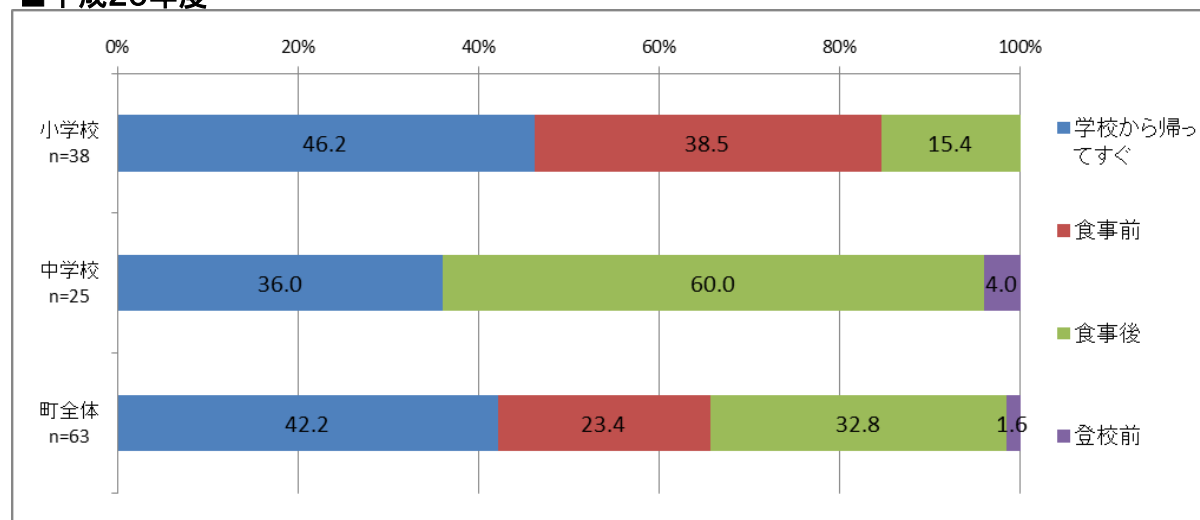
■平成27年度



中学校では、必要と考える勉強時間は増加している。部活動との両立を目指して、一層の頑張りを期待しているという表れであろうか。

(2) 児童生徒は、いつ家庭学習をするのが望ましいと思いますか。

■平成20年度

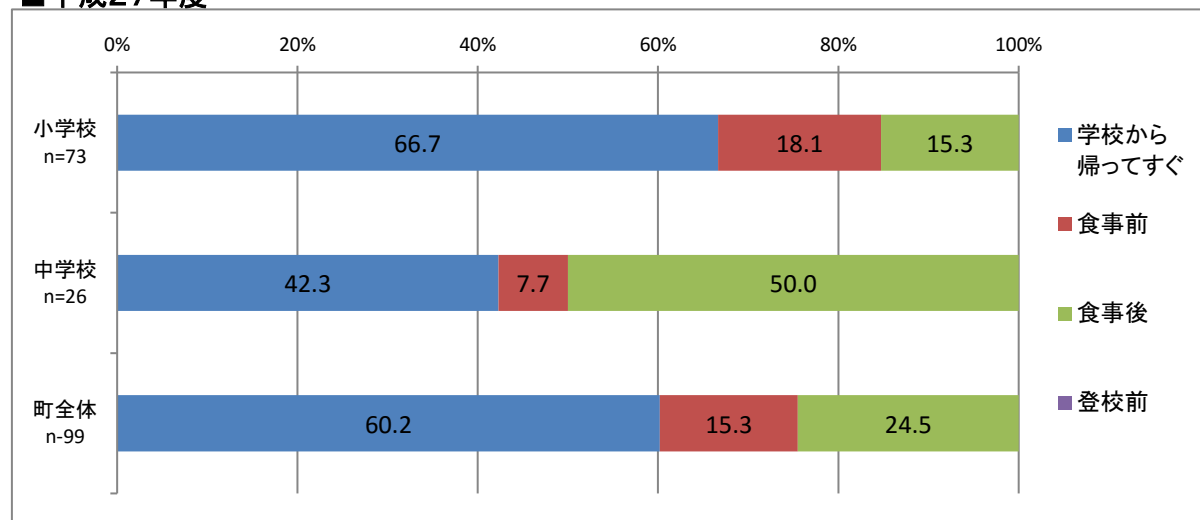


いつ家庭学習をするかに関しては、

小学校では、「食事後」と回答した教師の割合は変わらないが、「食事前」が減少し、「学校から帰ってすぐ」が20ポイント増加と、大きく変化している。

中学校では、部活動があるため「食事後」の割合が多い。

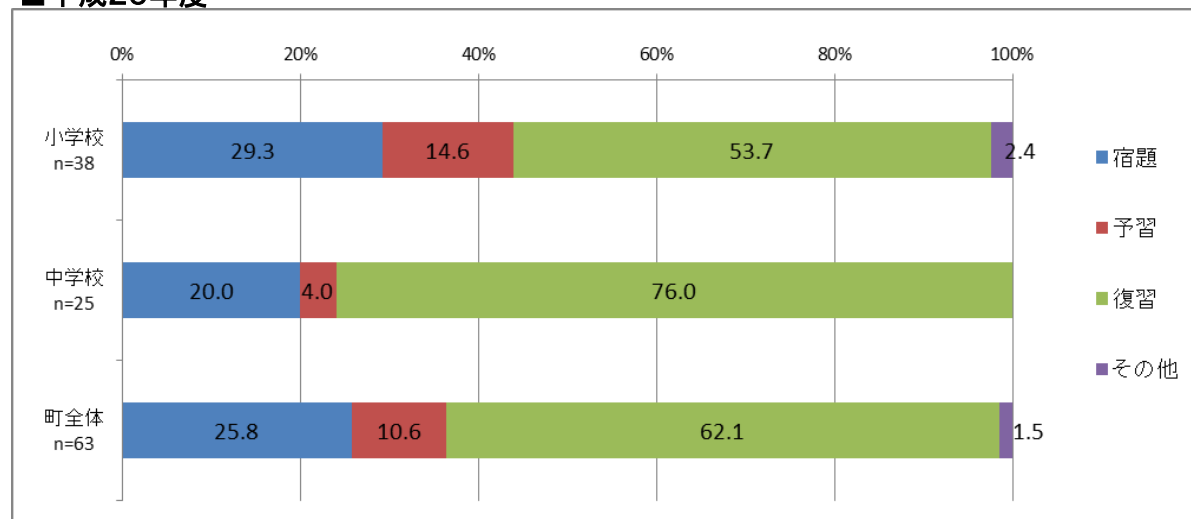
■平成27年度



よ
各家庭の事情に依るものでもあるので、時間を有効に使うことが一番大切なことと考える。

(3) 児童生徒の学力向上のためには、特にどの内容の家庭学習が必要だと考えていますか。一つだけに○をつけてください。

■平成20年度



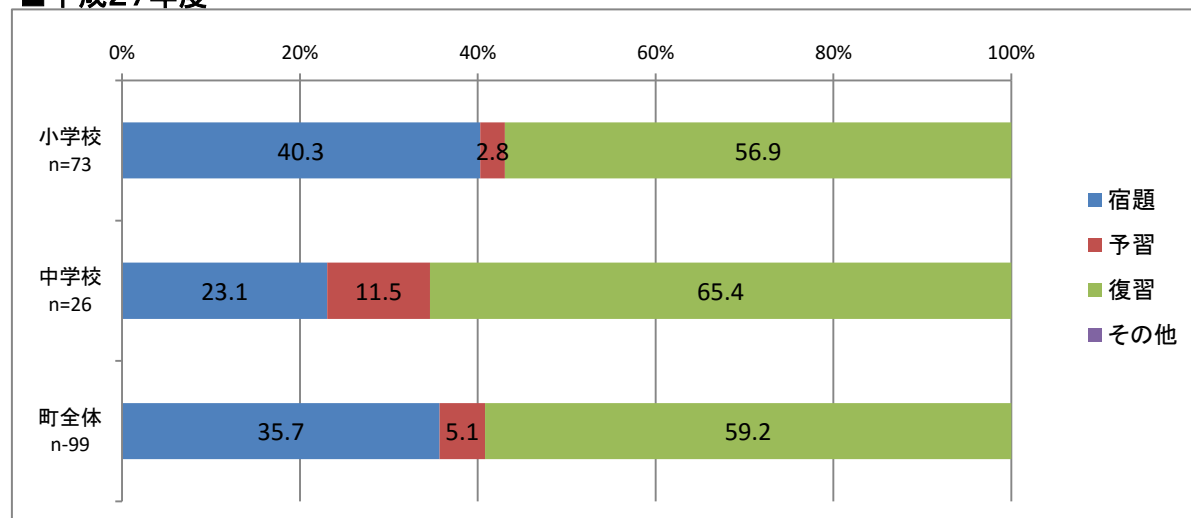
学力向上のために、特に必要な家庭学習の内容に関しては、

小学校では、「予習」が減少したのに対して、「宿題」が増加した。

「復習」については大きな変化はなく、20年度も27年度も全体の半数を占めている。

教師の大半は、復習を継続して行うことが学習内容の定着につながると考えていることがわかる。

■平成27年度



中学校でも、「復習」に重点を置いてほしいという考えは小学校と同じ結果になっている。